

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	・運営理念を、日常的に職員へ話していると同時に、掲示をし、共有を図っている。日々の散歩、地域の行事へ参加し地域の方へ積極的に声掛けを行い、地域に開かれたグループホームを目指しています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	・運営理念を基に、部署の事業目標、各自の目標を立て、取り組んでいます。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
	・玄関に掲示し、定期カンファレンス、面会時にご家族へ説明を実施しています。		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	・気軽に訪問していただけるよう、運営推進会議も活用しながら工夫していきたい。
	・日常の利用者との散歩の中で挨拶を行ったり、積極的に近隣の方に声掛けを行っています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	・自治会へは加入していないが、地域の行事の案内があり参加している。年1回消防の出初式へも参加し、交流をしています。		

沖縄県(グループホーム わかまつ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・現在状況の把握が出来ておらず、「運営推進会議」の中で、老人会等を通して、情報収集に努める予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価に取り組む事で、個々のサービス提供の見直し、グループホームのあり方について意識の統一をすることができています。	○	・「運営推進会議」の中で報告をし、意見や助言をいただき、今後の質向上に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回の運営推進会議の中でも、活発な意見があり、ホーム見学会実施しています。会議の意見をサービスの質向上につながるよう職員へ伝達し努力しています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・運営推進会議以外に行き来する機会がなく、現在、運営推進会議の中でも、双方の情報交換に努めるよう話し合いがもたれています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・現在該当する方はなく、「成年後見制度」についてのパンフレットを職員向けに回覧しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・法人内の勉強会へ参加し、日々のケアの中でも職員同士注意を払い、身体的暴力だけでなく、言葉の虐待「接遇」に取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約、解約をする際には、管理者より分かりやすい言葉で、利用者、ご家族へ説明し、十分納得出来る様、疑問や、不安点に関しては丁寧に納得するまで、繰り返し説明を行っています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者が苦情や、不満を言いやすいよう、関係を築く努力をしています。ご家族の協力も得、声掛けをしています。意見があった際には、職員間での話し合いを持ち、本人の意思に応えるよう努力しています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・毎回の面会時に職員より、日々の状況説明を行っています。又、家族参加の定期カンファレンス(3ヶ月1回)を持ち、ケアマネ、担当職員より、細やかな説明を行っています。職員の異動、個々の金銭管理については、個々にあわせて管理者より行っています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・苦情相談機関を重要事項の中にも明記しています。また日々の中で要望、不満等を伺い、話を聞くよう努めています。意見があった際は、指定の様式に明記し、改善しています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・人事考課の定期的な面接以外にも、日々の中で職員の意見を管理者は聞くように努め、施設長へも繋げるよう努力し、改善しています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・常に利用者の状況に合わせて、勤務の調整を職員へ理解してもらい職員の確保を実施しています。・行事等に合わせ、勤務の調整に努めています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動があった場合は、利用者、御家族へも説明し、早く馴染みの関係がとれる様努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の能力に応じた研修へ参加出来る様、研修の情報提供や、勤務の調整を行い、参加を促しています。・勤務外の研修へも職員自ら率先して	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・沖縄県グループホーム連絡会の「管理者会議」、ケアの質向上を目的とした「介護者研修」へ勤務内にて職員を派遣し交流、意見交換を行い取り組んでいます。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員同士で話し合ったり、管理者と話し合い、勤務の調整等を工夫している。管理者より施設長へ報告し、そのつど取り組んでいます。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・管理者は個々に合わせ、向上心を持って働けるよう本人に相談し得意分野を役割分担し、力を発揮してもらっています。職員の資格取得に向け支援しています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居者の不安で不穏状態になる場合は、出来るだけ寄り添うよう心がけ、表情や行動に配慮しながら、本人から希望を聴く機会を持ち、記録へ残し、職員が共有し馴染みの関係を早期に築けるよう努めています。また、入居前の馴染みもご家族と実施しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居時や、面会時にはこちらから声掛けを多くし入居者状況を伝え、職員統一して「何か困った事、要望はありませんか」「いつでも声掛けてください」と相談し易いよう声掛け実施しています。話があった際は、話を十分聞くよう努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご家族、本人の希望を十分聴くように努め「顧客要求事項」として記録に残し、こちらで対応できるサービスを話し、出来るだけ要望に添えるように努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・新規入居の際、個々にあわせてご家族と相談し馴染しを行ったり、馴染みの関係が出来る様ご家族へも御理解いただき協力して頂いています。他入居者との声掛けを多くし馴染みの関係が出来る様努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人が出来る事、出来ない事の見極めに力を入れて「出来る事」をしていただき、出来ない方の手助けをしていただき支えあう関係を入居者の方々から日々学んでいます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・日々の中で、ご家族と密に連絡を取り、協力をいただきながら本人の訴えに添えるよう共に入居者本人を支えていく関係作りに努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ご本人とご家族の気持ちを聞きだし、定期カンファレンス、面会の際に職員より双方へ伝え、より良い関係が気づけるよう支援しています。又、ご家族に認知症に対する理解が深まるよう、管理者、ケアマネ、職員よりカンファレンスの中で認知症に対する説明をしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居者の身体的、認知面での重度化に伴い、自宅訪問や、馴染みの場所への外出が困難であったり、外出の際にご家族が不安を抱えることがあります。	○	・本人の希望を取り入れ、状態に配慮しながらご家族と相談し年1~2回の外出支援に職員一人を配置し支援する計画を家族と少しずつ進めています。各地区の馴染みの老人クラブへの参加を「運営推進会議」を通して再開していくよう計画しています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・食堂での席の配置を工夫したり、利用者同士で自ら支えあう場面へは職員はそっと見守るよう心がけ、お互いの馴染みの関係が継続出来る様支援し、支えあう関係が出来ます。他者と折り合いが上手くいかない時は、職員が声掛けし孤立しないように配慮しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退居された方に入居者と会いに行ったり、職員のみで面会に行ったりしています。ご家族へも「いつでもいらして下さい。」と声掛けし、「ここに来ると安心するのでまたきます」とお言葉をいただき、退居後も訪問された事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の中で、本人の思いに耳を傾け希望、意向の把握に努めています。困難な場合は、ご家族、職員を交え検討し、本人の表情や行動についてミーティングにて話し合い、対応について検討しています。	○	・本人の希望を聴きだせるよう、職員はもっと努力し、コミュニケーション方法、接遇を学び本人本位のケアが出来る様取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・普段の会話の中から、本人より生活歴を聞き出したり、家族よりこれまでの経過を聞いたりしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・一人ひとりの心身の状態を把握し、その方が安心して過ごせるよう、個々の対応に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・定期で3ヶ月に1回、また状態の変化時に出来るだけ早めにカンファレンスを本人、ご家族、ケアマネ、担当職員と行い介護計画を作成している。他の介護者の良いケアの方法の意見等、医師、看護師の意見も取り入れている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・事故に繋がる様な、ヒヤリ・ハットが続く場合や、状態の変化時には即話し合い、現状に即した介護計画書を作成し、ご家族へも説明、同意を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・担当職員以外でも、日々気づいた事や工夫して良かったケア等を個人記録へ残し、介護計画へも反映し情報の共有をして対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人、ご家族のその時々々の要望に応じて、散髪の代行や他ホームとの交流を行い、馴染みの職員へ会いに行ったりしている。	○	・高齢化、重度化が進む中、本人、ご家族が抱える不安を解消する為、スタッフを一人配置し年1～2回のご家族との外出支援が出来る様計画している。散髪に関しては移動美容室の情報を集め、現在検討中である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・本人が不安の際には、近くの駐在所へも御理解いただき相談にのってもらっている。消防もすぐ近くにあり、消防の行事に参加したり散歩の際に声掛けしてもらっている。地域の行事へも参加している。見学、実習の受け入れを実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・他のサービスは利用していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・本人の意向や必要性があれば、協力できるように地域包括支援センターと情報交換をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月1回の訪問診療に家族、ケアマネの立会いにて情報の提供を行い、本人にとって何が良いか相談検討している。本人希望の診療所との連携を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。		

沖縄県(グループホーム わかまつ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに対し、その時に合った言葉かけをしているつもりではあるが、職員の意識統一がまだ十分ではない。	○ ・接遇、認知症の対応方法、個人情報関連の勉強会を行い、職員間の意識を統一して、一人ひとりに合った対応が実践できるようにしていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・一方的な声掛けでなく、個々に合わせて本人に選択出来る様な質問、声掛けをして自己決定が出来る様努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人の体調をみて、ペースに合わせて支援しているが、帰宅要望の外出支援の対応は十分とはいえない。	○ ・「家に帰りたい・・・」と言う要望に対して、本人の状態をみて出来るだけ要望に添えるよう、ご家族と密に連携を取り、協力していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・母体にて月2回の理美容日があり、家族対応にて行っている。美容師との馴染みの関係も出来ている。一人の方は元々通っていた美容室の方でもあり利用されている。個々に合わせて、髪油の使用や、化粧品の使用を促して一緒に購入したりして実施している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・声掛けにて意欲的に手伝って下さる。食材買出しの際に、好みの品があった際は、そのつどメニューを変更し取り入れている。一人ひとりに合わせて役割があり促している。入居者同士の力を活かしながら、コロッケを揚げて完成し、皆で喜んで食べた事もあった。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・本人の希望を取り入れ、状態に合わせて日常的に楽しめるようご家族にも説明を行い、協力を得ながら買い物から支援している。チョコレートやコーラ、甘酒等を楽しんでおられる。	

沖縄県(グループホーム わかまつ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・入居時より安易にオムツは使用せず、個別の排泄パターン、状態、サインを早期に把握するよう努めている。入居時リハビリパンツ使用の方が日中布下着にパット使用をしている。状態に応じて気持ちよく過ごせるようご家族へもそのつど、オムツの種類のアドバイス購入を依頼している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・個々に合った声掛けの仕方を介護計画にも反映し、希望、タイミングを合わせて気持ちよく入浴出来る様毎日声掛け支援している。以前にいた方は夜8時の希望であったため、職員の勤務時間帯を変更した事もあった。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中覚醒を促していますが、日々の本人の希望や、状態に応じて適宜休息を促し実施しています。気持ちよく眠れるよう個々に合わせその日の状態をみて声掛け支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・個々に合った役割や楽しみを見つけ、ことわざ遊びのリーダーや歌会のリーダーになってもらい自信をもってもらったり、草刈、日々の家事を行っています。職員や、他者からの感謝の言葉や感心の言葉を伝えるととても喜ばれています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・一人の方は自分で所持し買い物を楽しまれている。他の方は管理が出来ず、混乱したりする為事務所に管理しているが、本人希望時はそのつど対応し支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は、散歩やドライブの希望が多く出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・以前は行っていたが、最近は行っていない。	○	・項目30. 39. 52同様に外出支援の計画を立てている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人希望時には、電話をしたり支援しています。ご家族に協力をいただき手紙を送っていただいた時はとても喜ばれ、お返事も一生懸命考えている入居者の方もいました。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・訪問時には、居室へ案内し、お茶の提供をしたりゆっくり出来る様工夫をしている。家族によっては逆に気を使ってゆっくり出来ない方もいらっしゃるの、希望を伺い配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束はなく、自由に生活していただいている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は鍵をかけず、自由に出入りしている。玄関はセンサーを設置し、出入りする際は音が鳴り、安全の為に確認出来る様にしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中は、一人ひとりの行動や状態を見守り、スタッフ間声掛けし、常に居場所の確認を行っています。夜間は1時間おきの安否確認、必要に応じて随時見回りを行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・ライター等、危険性の高い物は法人で決められた通り保管場所を決めています。個々にあわせて異色の可能性(歯磨き粉など)があるものは個別に管理しています。包丁等は置きっぱなしではなく、見守りの中で使用するよう取り組んでいます。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故・ヒヤリハットの報告書を作成し、再発防止、予防に取り組んでいます。法人のリスクマネジメント、事故の勉強会、委員会へも参加をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分摂取の少ない方や、コントロールが必要な方は、水分チェックシートを利用し、職員が意識して促せるよう支援している。食事に関してもバランスや状態に応じてそのつど対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染対策マニュアルがあり対応しています。インフルエンザはご家族の同意を得て予防接種を行っています。普段から手洗いの徹底、手すり、食堂テーブルの消毒は毎回行い感染予防に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板等は肉、魚、野菜分け使用し、十分に洗浄し食器乾燥機での乾燥、ハイター消毒をし清潔に努めています。食材も工夫し期限内に使い切っています。残った食材はそのつど処分しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・手すり、ベンチの設置をし安全確保に努めています。草花や、めだかの観賞が出来る様、雰囲気づくりを工夫しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・テレビや音楽は時間や状況を見て職員にて配慮しています。まめに入居者と一緒に清掃をしたり、散歩時に摘んできた草花を飾ったり、季節感の飾りつけにも工夫をし居心地の良い空間作りに努めています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各居室にて過ごされたり、入居者同士お互いの居室や、玄関先のベンチなどを利用し過ごされています。		

沖縄県(グループホーム わかまつ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・個々に合わせ、ご家族や本人と相談して居室作りをしています。各居室にソファベットがあり、又簡易のベットも用意してご家族が泊まれるようにしています。実際にご家族が泊まる事も時々あります。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・24時間の換気機能がついています。掃除やシーツ交換などは窓を開け換気もまめに行っています。室内温度は個々に合わせまめに調節を行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・設計の段階でリハビリを交えて安全かつ、身体機能を活かせるよう配慮しています。使用してみて入居者に不都合があれば、そのつど業者と調整し、転倒防止の手すりの設置や不具合の対応を行っています。トイレは3箇所あり、車椅子対応の右麻痺用、左麻痺用、自立用と分けて使用しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレや、居室にそれぞれの表示をし、分からない時、混乱気味の際は安心するよう声掛けし、そのつど案内、対応しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・外に自由に出られ、散歩や周辺の草木を見たり、水かけをしたり活動を楽しんでいます。時々裏のベンチでのんびり過ごす事もあります。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム わかまつ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本来の自分を出せるよう心がけて支援しており、本人の意思の表現が入居してから豊かになってきた方が多い。本人のペースを出来る限り大切にしている。